
陰陽皆伝 序

関ヶ原

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

陰陽皆伝 序

【Nコード】

N 6 2 4 7 M

【作者名】

関ヶ原

【あらすじ】

平安京には、「五天宗」というものがあり。

その一つ「陰陽宗」に二人の若者がいた。

威神 陰夜と威神 陽天だ。

その二人が妖怪殺しに奮闘する姿。

今どの歴史書にも載っていない新たな歴史が切り開かれる！！

陰陽皆伝（前書き）

前回の作品よりは、良い。

陰陽皆伝

「破」

その声と同時に何者かの内臓が割れ心臓が張り裂けた。
血が四方八方に飛び散り、男の頬についた。

その男とは……

陰陽宗総本宗威神家第18代当主「威神 陰夜」《いかみ かげや》
「うああああ。」

後ろから目のとれた男が斧を翳してくる。

それを一人の男が指一本で押さえつける。

「オ、ウ、アア。」

そして、男が語る。

「最後に聞こう、貴様の願いを。」

「うあぎい。」

「分かった……死ね。」

業火に包まれ死んだ。

この男は……

陰陽宗総本宗威神家第19代次期当主「威神 陽ノ天」《いかみ
やうのあま》

この者たちの成す事は、人殺しでわない「妖怪殺し」だ。

「兄貴これで全部かな。」

「- 知らん」

「- いたら殺すまで」

すたすたと歩く陰夜。

「どごおおおん。」

「!!」

まるで、地面が割れるような鈍い音がした。

「- 西の村だ」

現場は、京から10km先の「桐雅村」という集落だ。

桐雅村は、緑豊かな村だ。

そして、その10分後桐雅村に陰夜と陽天がついた。

「こ・・・こりゃあ・・・」

豊かな村とは、正反対に焼け野原だった。

片腕が千切れていた若者がいた。

「これは、どういうことだ？」

と、若者に陽天が聞くとこう若者は答えた。

「き・き・きり・・・麒麟が・・・」

鳥肌が目に見えるくらい浮き出ていた。

「-き・麒麟だと」

驚くのも無理は無い。

世には出会ってはならない者五つあり

壱 麒麟

そう歌われるほどである。

「うぐっ」

「!-!」

既に若者は、死んでいた。

「ぎゃああああああ」

その音を探ると鼬に鉤爪をつけたような者がいた。

「-鎌鼬」

すぐに臨戦態勢を整える。

相手もそれに合わせて・・・逃げ出した。

「えっちょ待てこら」

鎌鼬は、元々獲物を殺して一度逃げ出し敵がいなくなったのを見はかり捕食する。

というハイエナのような性格を持つ。

「くそ待てこっとなったら・・・結界の刃・零の太刀」

近接攻撃を試みるがあたらない。

「待て」

そうして、呪文を唱えた。

「千里眼」

そう唱えた後鎌鼬が飛び出してきた。

「今だ」

それに反応する陽天。

「結界の刃・零の太刀」

そして、鎌鼬は切り刻まれた。

「よしっ」

その時だ。

「ぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐ」

まるで地面が割れる音がした。

木は、枝のように折れ、山が動いている。

「死之鼬」

20年前に封印されていた妖怪だ。

その体躯は、山そのものだ。

「こいつなんか切り刻んでやる」

そうして、切りかかっても傷一つつかない。

「なんて硬さだ!!」

（何か手は・・・）

その時、陰夜の手に雪が乗った。

時は、師走のころだった。

（..そうだ）

「俺が結界を作り動きを止める、だからお前は奴の心臓に切り込め」

「分かった。」

陰夜が結界を作り出すと一目散に飛び出した。

そして、一時間くらいたち・・・

「もおいしいぞ」

結界から抜け出す陽天。

「雪崩」

そう唱えると敵の上から大量の雪が落ちてきた。

そう、その雪はさっきの雪を積もらせて一気に噴出してすぐに結界を張り傷ついた心臓を凍傷させた。

その10分後死之魃は、死んだ。

「や・・・殺ったのか？」

「・・・ああ」

「最近何か変じゃねえか？」

唐突に渋い顔し、質門をしてきた。

「・・・何が」

「京だよ」

「最近妖怪の動きが活発になってやがる」

「・・・ならば来月軍議を開こう」

そして、その次の月に京じゅうの陰陽師を集めた。

無事軍議が終わろうとしたころ。

「ダダダダダ」

僧が血相変えてきた。

「なんだ、騒々しい」

そしたら僧の口から驚きの一言が。

「な・・・長岡に・・・百狐が」

「・・・何」

陰陽皆伝（後書き）

どうだった？

陰陽皆伝 光（前書き）

鎌鼬達を倒した陽天と陰夜。一時は、平和を取り戻したのに再び
そして今度は、鎌鼬より強大な百狐が現れる！ 京に齎せた脅威を
退けるべく今、陰夜と陽天が立ち上がる。

陰陽皆伝 光

「な・・・長岡に・・・百狐が。」
「何

僧が血相を変えながら言った」

『百狐つてあの・・・』

『あっああ』

あたりがざわめきだす。

「静かに！！」

陽天があたりを一喝する。

「私達が行く」

陰夜と陽天が立ち上がる。

そして、陰夜と陽天が長岡に向かった。

「ウゝオオオオオオオオ」

全ては、火の海。千切れや半分、焼けた人の山。

「ひでえ」

叢、森、生き物全ては、百狐に・・・

麒麟と同様の幻獣だ。

「・・・とりあえず刺すか」

巨大な十字架が百狐の上から降ってくる。

「グオ？」

百狐は、何事も無かったかのように十字架を折る。

「・・・何だと」

幸い百狐は、きずいていなかった。

（軽くとはいえあんな簡単に）

「この化け者ぎっ」

「ゴオオオオオオオオ」

言い終わる待たずに陽天が100m先の枯れ木にほど飛ぶ。

「・・・陽天」

「ぐう」

何とか無事のようだ。

「強い」

「へっ感心してる場合かよ」

そういう陽天も内心勝てる気がしていないのだ。

「ボ・・・ボボボボ、ボボ」

「今度は何だ？」

陰夜、陽天を取り囲むように火がついた。

「狐火」

物凄い速さで狐火が1つ飛んで来る。

「うお、あつ！」

避けたものの軽い火傷をした。

「こんな強いのに更に！？」

驚く二人に突然の転機が。

「ぽつポポポポ・・・サアアアアア」

雨が降ってきた。

「ア、ア、ウウウウ」

雨が降ってきたと同時に百狐がもがきだした。

「シュウウ」

狐火が消えていく・・・

「雨が・・・か」

「嗚呼」

そして、百狐はだんだん小さくなり最後は、ただの狐になってしまった。

「やったか・・・」

「やりきれんなだがこのまま殺すのも酷だ。封印しておこう」
そうして一時の休息が齎された・・・

・・・だが、その封印が世界の「死」を齎すことになるとは・・・

「オマエビヤツコカ？」

そこにいたのは、「鬼」とでもいおうか・・・

「クウーン」

「ソウカ、ソウカ」

「イタダキマス」

「ギャイン」

狐は、心臓が無くぐったりと横たわっていた。

「ウオオオオオオオオオオオオオオオオオ」

「鬼」は唸りを上げた。

「カンジル、カンジルゾオオ」

「ゲンジュウ、タマシイ、カンジル」

・・・・・・・・・・・・・・・・

百狐対峙の後山で薬草を採って帰るところ・・・事件は起きた。

「ウガガガガガガガガガガガガガ」

「キヤアアアアアアゴロゴロ」

2匹の何かの声が滝のほうからした。

「あ・・・あれは・・・」

「麒麟と・・・・・・・・」

陰陽皆伝 光 (後書き)

ついに百狐を倒した？2人だったが今度は、悪魔が訪れる・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6247m/>

陰陽皆伝 序

2010年10月8日11時39分発行